

基礎講座

子どもの人身売買ってなあに？

T・NET通信20号「子どもものがたり」で西・中部アフリカの人身売買について紹介しました。人身売買は90年代半ばから東欧諸国でも行われるようになり、第一の波と言われた東南アジア、以降中南米、アフリカについて第四の波と言われています。子どもの人身売買はなぜ起きてしまうのでしょうか？ またこの問題を解決するために、私たちにできることはないのでしょうか？



子どもの人身売買ってどういうものなの？



性的搾取、臓器移植、強制労働などを目的として、子どもたちをモノとして売買することです。

ブローカーと呼ばれる人たちから、または経済的に苦しい親や親戚から「いい仕事があるよ」と持ちかけられます。子どもたちは少しでも苦

しい家庭の収入を支えることができれば、とだまされてしまうのです。何も知らない子どもたちに待っているのは過酷な労働だったり、売春の強要だったりします。



なぜ子どもの人身売買がおきてしまうの？



さまざまな理由がありますが、大きな原因は貧困です。

親戚から売買業者を紹介された親が、子どもたちがその後受ける経済的および肉体的な搾取について知らないまま、自分たちの生活のために誘いに応じてしまう場合があります。

また、子どもたちが人身売買と気づかずに被害にあってしまうこともあります。自分も働いて家族の暮らしを支えたい、と考える子どもたちに、ブローカーたちは「都会に行けばいい仕事があるよ」「家事手伝いの仕事でたくさん稼ぐ

ことができるよ」などとやさしく、そして言葉巧みに話しかけるのです。「あなたにだけ紹介する仕事だから、誰にも言わないで」「早く出発しないと仕事なくなってしまうよ」と口止めをし、子どもたちが家族に黙って家を出るようにしむけます。時にはお金の欲しい親戚を利用して、子どもの安心を得るために、親戚から子どもに仕事の話をさせることすらあります。

こうした人身売買は、国境を越えることも珍しくありません。組織的に行われているため、取り締まることは容易ではありません。



解決に向けて日本ではどんなことができるの？



ユニセフ欧州総局長フィリップ・オブライエンさんから、みなさんにできることとして次の6つが提案されています。みなさんたちができることを考え、そして実行してみましょう。

1. もっと人身売買の実態を知ること
2. 子どもの権利条約の選択議定書を日本も批

准すること

3. 子どもたちに保護とケアを提供すること
4. 子どもの権利条約をさらに推進すること
5. ユニセフの活動を支援すること
6. 日本が買春にかかわる行為を国外旅行でしないこと